

ひとりひとりの成長にあわせた子育て





～子どもの気持ちを受けとめていますか～






松伏町教育委員会


TEL 048(991)1873

	子どもの成長段階	親の働きかけ・心がけ
乳児期 (0〜2歳)	<p>〈情緒の安定〉 そばにいてね!</p> <p>☆乳児はとともよく泣きます ☆泣いて訴えます (おなかがすいた、眠い、オムツが汚れてる、不快感、かゆい時など)</p>  <p>☆寝返り、おすわり、ハイハイ、歩く等いろいろな事が出来るようになります</p> <p>☆人見知りが始まります ☆ひとり遊びができます (ひとりで遊ぶ。他の子どもに影響されずに遊ぶ)</p> <p>☆いたずらが始まります ☆傍観遊びができます (目では他の子どもの遊びを見て遊んでいる)</p>	<p>〇思いっきりスキンシップ</p> <p>☆笑顔で話しかけながら赤ちゃんに接しましょう。安心感を抱き、人間を信じる基本となり、親子の絆を強めます。コミュニケーションが大切です。 ☆子育ての先輩、赤ちゃんの祖父母からアドバイスをもらいましょう。</p> <p>☆子どもの成長が著しいこの時期です。成長を楽しみましょう。また、転落などの事故も多い時期ですので周囲の安全に気を配りましょう。</p> <p>☆人見知りは、愛着関係ができている証です。親と他人との区別が出来るようになったのです。 ☆赤ちゃんの祖父母や知人も関わりを持つようにしましょう。子育てを一人で抱えこまず、時には周りの手も借りましょう。</p> <p>☆いたずらは、自主性の始まりです。危険がない限り見守りましょう。</p>
幼児前期 (2〜3歳)	<p>〈自己主張〉 じぶんでやりたいよ!</p> <p>☆「三つ子の魂百まで」と言われています 年令は目安であり、個人差もあります</p> <p>☆何でも自分でやろうとする時期です</p> <p>☆基本的な生活習慣 (食べる、寝る、排便等) が身につく時期です</p>  <p>☆平行あそびができます (同じ場所で同じ遊びをしていますが、それぞれ一人で遊んでいる状態)</p>	<p>〇だいすきよ</p> <p>☆「三つ子の魂百まで」だからと、しつげに深刻にならず、一緒に遊び、抱きしめてあげましょう。</p> <p>☆自分でする気持ちをもたせる事が大切です。すぐに手を出さず、失敗しても怒らず、様子を見ながら「いいね!」「すてき!」等のことばを子どもの目の高さに親もしゃがんでほめて励ましましょう。親の我慢のしどころです。</p> <p>☆子どもを連れて夜遅くに外出する事は避け、子どもに合わせた生活習慣 (早寝・早起き・あいさつ・お昼寝・外遊び等) を心がけましょう。</p> <p>☆睡眠は免疫機能の活性化や成長ホルモンの分泌を促し、心のバランスも整えます。</p> <p>☆同じ年頃の子とも多く接する機会を作り、親も一緒に遊ぶと子どもは安心します。</p>
幼児後期 (4〜5歳)	<p>〈積極性〉 なんで? どうして?</p> <p>☆第一次反抗 (自我確立) 期が始まります</p> <p>☆善悪の区別をするようになります</p>  <p>☆いたずらやケンカがみられます ☆だんだんとおもちゃの貸し借りが出来るようになります</p> <p>☆かわいそうな話をすると涙ぐむ等の感情も発達します</p> <p>☆合同あそびができます (一緒に同じ遊びを楽しむ。一緒に遊ぶ事が楽しい)</p>	<p>〇あなたは大切な子なの</p> <p>☆同じ事を何度も聞いたり、何に対しても「なんで? なんで?」と聞いてきます。ゆっくり丁寧に子どもの顔を見て答えてあげましょう。</p> <p>☆「どうしたの?」とたずね、子どもの言う事を受けとめ、「わかったよ。〇〇だったんだね。でもね…」と、子どもがわかるように話をしましょう。</p> <p>☆いたずらやケンカは、多くの子に表れる事ですが、自分と相手との考えや行動のズレから起こる姿の一つです。育ちの姿の一つとして受けとめましょう。</p> <p>☆絵本の読み聞かせをたくさんしてあげると、本が好きになったり、お話に共感を覚えたりして同情心がめばえ、心が豊かになります。</p> <p>☆花や景色など自然の美しさを子どもに伝え、一緒に感動できるような働きかけが大切です。</p> <p>☆感動体験・成功体験・失敗体験は子どもを大きく成長させます。</p>

	<h2 style="text-align: center;">子どもの成長段階</h2>	<h2 style="text-align: center;">親の働きかけ・心がけ</h2>
児童前期 (小学生1〜3年生)	<p style="text-align: center;">〈社会性〉遊びに行ってきます！</p> <p>☆行動範囲が広がります</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>☆道徳心が身に付きます</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>☆協同あそびができます (目的におかってみんなで遊ぶ。役割を分担し、テーマをもって楽しむ)</p>	<p style="text-align: center;">○目を見て話そう、話を聞こう</p> <p>☆小学校に入学しても子どもから手を離さないようにしましょう。この世に生まれてまだ6年。たった6年しか生活経験がありません。わからない事ばかりです。</p> <p>☆登下校を見守ってくれる地域の方に感謝し、お礼のあいさつができるように育てましょう。</p> <p>☆友達と遊ぶ時には「どこで？誰と？何時に帰るの？」等、家庭でのルールを決め、思いっきり遊ばせましょう。</p> <p>☆集団生活は、仲良く遊ぶためにルールを守る、弱い者いじめはしない等、思いやりの心を育みます。</p> <p>☆生活のリズムを確立させましょう。あいさつは親が手本を示す事が一番です。「おはようございます」「こんにちは」「行ってきます」等、時と場合に応じたあいさつをしましょう。</p> <p>☆家族の一員としての仕事やお手伝いを通して、「ありがとう」「助かったよ」とお礼の声をかけ、喜びや充実感を育てましょう。</p> <p>☆高齢者や体の不自由な人にやさしく接する心を育てましょう。</p> <p>☆失敗やいけない事をしてしまった時は、それを責めるのではなく「どうしてそうなったのか」「どうすれば同じ事をしなくてすむのか」「どうしたら許してもらえるのか」など、次の行動につながるよう、子どもと一緒に考えてあげる事が大切です。</p>
児童後期 (小学生4〜6年生)	<p style="text-align: center;">〈活動性〉お友達が大事！</p> <p>☆知的能力が年齢や経験をふまえて身につきます</p> <p>☆自分の能力に自信を持つようになります</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p style="text-align: center;">○ほめて、認めて、受けとめる</p> <p>☆自分で考えたり、友達と遊びあう事により夢や希望を持ち、知的好奇心がわいてきます。身体を使った遊びや、心をふるわせる体験をさせてあげましょう。</p> <p>☆ゲームやスマホ等の利用では家庭のルールや約束事を決め、生活のリズムや社会のルールを守らせましょう。</p> <p>☆子どもの良い行動や言葉づかい、がんばりなどをほめたり、認めてあげる事が、やる気を起こさせます。</p> <p>☆友達との関わりの重要性が高まります。子ども同士の思いが複雑になり人間関係が難しくなる頃です。そして、大人に頼ってくる事が多いので、しっかりと受けとめ、力になれる心のゆとりや準備が必要です。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>☆親も自ら、目上の人への言葉づかいや礼儀などを正しくし、子どもにその姿を見せましょう。</p>

	子どもの成長段階	親の働きかけ・心がけ
青年前期 (中学生)	<p><自我の確立>みんなは、自分の事をどう思っているのだろう？ 自分は親の所有物じゃない</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆第二次自我確立期が始まります ☆親や教師による指示の無視や、社会的習慣や制度の批判をします ☆「自分はどういう人間か」という自己模索をします ☆集団生活のルールを理解し、集団の一員として自覚ある言葉遣いや行動をとります ☆仲間と協力しながら物事を行い、連帯感や責任感を身につけます ☆ボランティア活動に参加し、社会の一員としての自覚が高まります ☆命の大切さを知り、自然や公共物を大切にします 	<p>○自主性を認め、見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆「子どもの将来のため」の思いから、親の価値観の押しつけになりがちです。子どもの意見を聞くようにしましょう。 ☆くどくど注意をしても、自我確立期の場合にはうるさく思われるだけです。ダメな事はダメと要点だけを伝え、子どもを信じ、我慢強く待ちましょう。 ☆間違っただ行動に対しては厳しく叱る事が大切です。互いに冷静な時に親の願いや考えを話しましょう。 ☆心も体も大きく変化します。何でも話をしていた子どもが、急に話をしなくなる事もありますが、無理に話を聞き出そうとはせず、また、放任にならず、子どもの小さな変化に気付く、気持ちのゆとりを持ちましょう。 ☆自分で決めて責任ある行動をさせ、達成感を味わえるよう見守りましょう。 ☆自転車利用時のルールやマナーを守り、命を大切にすることを心がけるよう話しましょう。 ☆周りの人の話を聞いたり、自分の意見を話したりできるような雰囲気づくりをしましょう。時には親の体験などを話す事も効果があります。
青年後期 (高校生以上)	<p><独立心></p> <ul style="list-style-type: none"> ☆自分づくりの時期です ☆社会で生活するための常識や判断力の基礎をふくらませます <p><自己確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ☆自分の将来を考えます ☆自分らしく生きていくことを心がけます ☆親の保護から抜け出し、社会の一員として自立した生活を考えます <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	<p>○子どもの人生の主人公は、子どもである</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆「自分は何がしたいのか」「どんな仕事に就けるのか」「必ず〇〇をやる！でも、どうしたら…」等々、将来に対して悩みや不安を抱えている子どもの思いに共感しましょう。自分で考え、自分で答えを出せるよう、親として辛抱強く待ち、自分らしく生きていく事の大切さを学べるように見守る事が必要です。 ☆「親だから」「大人だから」と上からの目線で子どもに接しては親の思いは子どもの心へ届きません。親も素直な気持ちで子どもと向き合しましょう。 ☆親の生きる姿勢、親の後ろ姿を子どもは見えています。親の気持ちに気付く時が、きつときます。必ず伝わるものです。 ☆子どもはいくつになってもお父さん、お母さんが、大好きです。コミュニケーションを心がけて、明るく、笑顔で、子どもの心の拠りどころとなる家庭を築きましょう。 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  </div>

子どもの成長と親の心構え

【成長過程】	【年齢】	【心構え】
<p><情緒の安定> 親子の絆</p>	0歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 安心感を与える優しい関わりが大切です。そのため、たっぴりと愛情をかけ、あやし・抱っこ・添い寝等のスキンシップの時間をたくさん持ち、幸せいっぱいの中で語りかけましょう。 * 生まれた時から、まわりの人の笑顔が大好きです。
<p><自己主張> 意思表示 ●三つ子の魂百まで</p>	1歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 食事や排泄等、習慣付けをする頃ですが、「いやだ」という意思表示ができる時期です。「いやいや」は、自己主張のあらわれ、成長のしるしです。 * しつけとは厳しさだけではありません。静かに言って聞かせ、できるまで粘り強く待ちましょう。焦らず、怒らずの気持ちが大切です。できた時は心から喜び、たくさんほめましょう。
<p><積極性> ケンカのはじまり ●基本的な生活習慣 ●第一次自我確立期</p>	3歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 子どものケンカは、自分の子どもが手を出しても出されても良い思いをするものではありません。しかし、子どもの協調性が育つ機会でもあります。無理に止めに入らず、目を離さず、ケガをしないように見守る事も必要です。 * 子ども同士が一緒に遊べない事は心配ありません。子どもは周りの様子を見ながら、その場に一緒にいるだけで満足しています。 * 周りの目を気にして、「はい」「ごめんなさい」ばかりを強いる親の自己満足の子育てはやめましょう。心から甘えられる関係がないのに厳しくされると、“親の前ではいい子” “いい子にならなければ” とストレスがたまりまます。子どもの成長を信じて、ゆったりとした気持ちで接しましょう。 * 子どもを抱きしめたり、一緒にじゃれあって遊んだり、子どもの気持ちを考えて会話をする事が心の安定を育みます。
 <p><社会性> 人間関係づくり ●道徳の基本 ●思いやりの心</p>	6歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 行動範囲が広がります。 * いたずらやケンカは、発達段階の過程であるという姿勢での対処は必要ですが、すべてがOKではありません。見極めが大切です。 * 親子のコミュニケーションは、子どもの心育ちの栄養素です。 * 子どもの失敗等は責めるのではなく、どうしたら良いのか一緒に考えます。
<p><活動性> 自分の能力に自信を持つ 意欲ややる気が身につく</p>	9歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 勉強やスポーツ等で、他の子と比べ、拍車をかける事により、自信が持てなくなり、友達を敬遠する事があります。 * □答えをしたり、親に抵抗する力が育ち始める頃です。 * 困った事を親に頼ってくる時期です。そのサイン（反抗・無気力・登校拒否・腹痛等）を見逃さず、大人として、生き方を示してあげましょう。
<p><自我の確立> 自立や努力の意欲が表れる ●第二次自我確立期</p>	12歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 自立欲求や自己主張、そして、物事を理解する事の未熟さから、心理的摩擦を起こし自我確立に向かう態度に出ます。また、自分はどうか思われているのか等、自分の存在を考える時期でもあります。後ろから見守る優しさや我慢が大事です。 * 押さえていた、押さえつけられていた自分を表現したくて、反抗的行動（物をこわす・人をなぐる等）に出る事もあります。 * 「ありがとう」と感謝された時の喜びは“自分が必要とされている”という自尊感情につながります。大人から率先して言葉をかけましょう。
<p><独立心> 責任感や連帯感の意識のもと、社会正義を身につける</p>	15歳から	<ul style="list-style-type: none"> * 家庭での決め事を守らせる事や、親の考えを伝える事はとても重要です。子離れの努力が必要な時期です。
<p><自己確立> 社会で生活するための常識や判断力の基礎を養う</p>	18歳から 《成人》	<ul style="list-style-type: none"> * 子どもが大人の仲間入りをします。自分の生きがいとなる世界や自分の在り方、生き方を探すために、親として支援をしていきましょう。

親の態度と子どもの性格への影響例

- ◎親が支配的な育て方をしていくと、言われたままの行動をとり、自発的な行動をとれない場合があります。
- ◎「ダメ、いけません」ばかりで育てると、反社会的、神経質、落ち着きのないうちに育つ場合があります。
- ◎命令をして従わせる育て方をすると、乱暴な言動や責任逃れな言い方が見られ、素直さの少ない子どもに育つ場合があります。
- ◎子どもの自立をつぶしてしまうような育て方をすると、幼児性が抜けなかったり、すぐに大人に依存したり、嫉妬心が強く神経質になる場合があります。



家庭教育手帳から学ぶ

松伏町教育委員会教育長 岡田 直人

文部科学省から保護者の皆様に配布されていた家庭教育手帳は、「乳幼児編」「小学生（低学年～中学年）編」「小学生（高学年）～中学生」の三冊に分かれています。その中に、「正しいしつけは子どもへの大切な贈り物」と題して、しつけに関する大切なポイントが紹介されています。今回は、その三冊をもとに大切な事गरらを紹介します。

◎「乳幼児編」

○ 子どもは「親」のぬくもりを求めています。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで問題に立ち向かう事ができます。そして不必要に攻撃的にならず、他者や問題を受け入れる事ができ、大きく成長できるのです。

○ 良い事をしたときは、しっかりほめてあげる。

子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にする力です。そのためには、子どもの良いところを見いだしほめる事です。叱るべきときは叱り、ほめるべきときはしっかりほめる。一つ叱ったら三つほめるくらいのバランスを心がけましょう。ほめられる事で子どもは喜びを感じ、自信や自尊心を確かなものにしていきます。

◎「小学生（低学年～中学年）」

○ 子どもはSOSがうまく言えない。

いじめや不登校につながる悩みなど、子どもが心の問題を抱えたとき、それは、しばしば身体的なサインとなって現れます。腹痛・吐き気・下痢・食欲不振といった症状や過食・拒食・不眠といった行動などさまざまなサインがあります。サインに気づいたら、学校の先生や医師によく相談してみましょう。

○ 特別な支援が必要な子どもがいます。

家庭や学校で、「ことばのやりとりがうまくいかない」、「いつまでも落ち着きがない」、「漢字が覚えられない」など、年齢にふさわしくない行動や様子が見られる場合、LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障がいがある理由の一つかもしれません。発達や行動について心配があったら、一人で悩まず、できるだけ早く学校や地域の発達相談の窓口で相談してみるとよいでしょう。

◎「小学生（高学年）～中学生」

○ 子どもが相談したくなる親はどこが違うんだろう。

人は愛され理解されたがっている存在です。理解されないときの不満がたまるとうキれる事もあります。日ごろから相手の話をじっくり聞く、同じ目の高さで考える、深い関心を払う、といった姿勢を親が身につける事で、子どもは親に愛されている実感を得る事ができます。

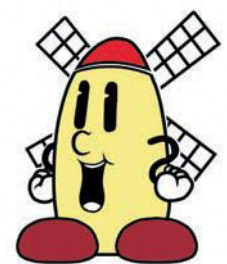
○ だれも一人では生きられない。

私たちは皆、助けられ支え合って生きています。違う考え方や価値観に出会い、我慢したり譲ったり交渉したりする経験の中で、社会性が身につきます。

誰も子育てには悩まされます。ときにはどうすればよいか困り果ててしまう事もあるかと思いますが。そんなとき、この「ひとりひとりの成長にあわせた子育て」が少しでも皆様のお役に立つ事を願っています。

今こそ、子どもの成長にあわせた子育てを

すべての親に対する子育て支援として、内容を見直し、令和5年版を発行いたしました。子どもの成長は、ひとりひとり違います。大人は子育ての応援団として子どもの伸びる力を信じ、コロナ禍で子どもと過ごす時間が増えている今、この時の子育てを十二分に楽しんで欲しいと思います。松伏町の子ども達の健やかな成長を願いながら…。



困った時はお電話ください!!

- | | | |
|--------------------|----------|--------------|
| ※ 乳幼児の育児相談、発育・発達相談 | 保健センター | TEL 992-3170 |
| ※ 子どもに関する相談（小中学生） | 教育相談室 | TEL 992-2000 |
| ※ 児童福祉に関する相談 | すこやか子育て課 | TEL 991-1876 |